

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成三十一年三月度 入選句（投稿総数三千九百十三句・一般投句数五百八十九句）

特選

春並ぶ近江八幡つけもの屋 京都府宇治市 中村 広美

近江八幡は豊臣秀次が建設した城下町で、近江商人を中心とする商業都市として発展した。

町を歩くといろいろな店が軒を連ねている。その中のつけもの屋。春野菜の漬物が色取り取り置かれている。菜の花・キャベツ・水菜等々。試食もできる。まさに春並ぶである。

受験子に鉛筆の芯折れやすし 不破郡垂井町 竹嶋 富美子

二三月は受験勉強の大詰め。字を書く手にもつい力が入ってしまう。シャーペンの芯は書いて減るよりも折れる方が多かった経験がある。  
受験に際しての不安や悩みが、芯折れやすしに象徴された。

島の春役場の屋根にホームラン 岐阜市 伊藤 瑞実

春は陽気のいい暖かな季節。万物の命が目覚める時である。  
島の役場の屋根にホームランボールが飛んでいった。晴れ渡った青い空、そんなに広くないグラウンド、海の匂がする。伸びやかに野球を楽しんでいる様子が目に浮かぶ。

秀逸

米を研ぐ五指ゆるゆると四温かな 福井県敦賀市 山田 美千代

ふるさとの星煌々と凍み豆腐 東京都世田谷区 関戸 信治

終着の駅より始む探梅行 揖斐郡池田町 木塚 しょう

老梅に刻ゆつくりと幹に苔 海津市 横井 美圭

攻める駒躲す一手や春障子 大垣市 早崎 美弥子

水ぬるむ舳先こつんと船溜り 大垣市 佐藤 すみ子

指貫をつけし手のまま針供養 大垣市 臼井 秀子

掃除機に負けぬ鼻歌山笑う 大垣市 山田 千歌子

田へ注ぐ水を分かちて春の川 兵庫県神戸市 岸下 庄二

春の闇振り子時計の刻む音 大垣市 高石 政明

入選

朝の駅五分遅れの余寒かな  
立春や小さな話で盛り上がり  
春光を啄ばむ鳩の背中かな  
雛ごとに語り掛けては納めをり  
念仏をとなえて眠る春の夜  
大根干すゆつくり進むもの忘れ  
夕空へ白鳥帰る淡海かな  
寒稽古こころと太鼓たたきけり  
あるじ逝き大根の花乱れけり  
遠ざかる夜汽車の尾灯寒の月

|         |     |     |
|---------|-----|-----|
| 大垣市     | 吉田  | てるみ |
| 大垣市     | 平井  | ひより |
| 神奈川県大和市 | 岩田  | 爾瑠  |
| 愛知県名古屋市 | 舘野  | 茂子  |
| 大垣市     | 大塚  | たえ  |
| 海津市     | 水谷  | 勲一  |
| 大垣市     | 佐久間 | 敏雄  |
| 大垣市     | 稲葉  | 妙宏  |
| 大垣市     | 平野  | きぬよ |
| 愛知県額田郡  | 平松  | 京師  |

入選

独り聞く深夜ラジオの花便り  
フラフープ百を数へて日脚伸ぶ  
小錦のウクレレライブ春の風  
春の風老猫そつと眼閉づ  
四温晴れ四方に輝く金閣寺  
福豆の飛び越えていく我が頭上  
ぶらんこに幼き恋の揺れはじむ  
おはようと校長の声風光る  
鴨引きて名もなき川に戻りけり  
水温むけふは遠出の車椅子

|        |     |      |
|--------|-----|------|
| 大垣市    | 棚橋  | みさを  |
| 大垣市    | 傍島  | 隆    |
| 大垣市    | 久保田 | 悟義   |
| 岐阜市    | 島   | めぐみ  |
| 大垣市    | 佐竹  | 余史美  |
| 京都府京都市 | 八田  | 弥須子  |
| 不破郡垂井町 | 西田  | 厚史   |
| 大垣市    | 日比  | ジュンコ |
| 大垣市    | 宮脇  | 和子   |
| 岐阜市    | 堀江  | 美州   |

選者吟

初蝶の光の他は動かざる

武直